

# ぶどうのささやき

32号

2022年  
1月15日発行

地域経済の活性化を目指し、社会貢献をしています。

## 創立 65 周年を迎える三浦商工会議所についてご紹介します

新年あけましておめでとうございます。

三浦商工会議所は、本年創立 65 周年を迎えます。当商工会議所の工業部会長を担当していただいている富野養二郎氏が産業クラスター研究会の理事長にご就任されたのを機に、巻頭言を執筆する機会をいただきましたので、当商工会議所の沿革を中心にご紹介させていただきます。

当所の前身である「三崎水産商工会」は昭和 24 年 5 月に三崎町の水産・商工業者の駆け込み寺として、旧魚市場の 2 階で発足しました。

当時は、統制経済が撤廃されてまだ間もない頃、魚市場を中心とした遠洋マグロ漁業者・鮮魚仲買業者・水産加工業者・酒商・青果商・造船業・機械工業等の会員が主でしたが、その後、のれん分けなどで自立された自営業者が年々増加、帳簿のつけ方、自主申告の方法などを指導する機関がなく、商工会の設立は大変喜ばれたそうです。

昭和 30 年に「三崎町」、「南下浦町」、「初声村」が合併し「三浦市」が誕生、これに伴い産業界より「三崎水産商工会」から市全体の産業を網羅した総合経済団体である「三浦商工会議所」の設立ムードが高まり、三浦市当局も時代の趨勢を踏まえ、市議会の議決を経て、昭和 32 年 2 月に商工会議所法による「三浦商工会議所（会員数 598）」が誕生しました。

商工会館は、当初、電報局が使用していた三崎 2 丁目の土地・建物を簡易補強し、借り受けたまま活用し、その後会員からの寄付金等で物件を購入、昭和 41 年 4 月に 3 階建ての新会館を建設しました。

年を経て建物の老朽化が進み、平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災を経験、その後、耐震診断を行い 45 年経過している商工会館の建て替えが急務となり、三崎 3 丁目の旧三崎警察署跡地を三浦市から購入し、会員の皆様からの寄付金と、県、市からの補助金により、4 階建の新商

三浦商工会議所  
専務理事 山下芳夫



工会館が完成し、事業者の皆様にご利用いただき現在に至っています。

現在、三浦市内では「二町谷埋立地区の多目的利用による整備開発計画」、「三崎漁港のグランドデザイン策定による再整備計画」、「三崎地区のゾーニングによる城山地区の開発計画」、「城ヶ島京急ホテルの建て替え」等、今後の再活性化に向けた様々な開発計画が進行しています。また、道路関係では「都市計画道路西海岸線の未整備区間の建設促進」や「三浦縦貫道路Ⅱ期区間の北側区間に続く残区間の早期事業化」等、三浦市の今後に欠かすことのできない大動脈の整備計画があります。

これらの大規模な開発計画に対し、三浦商工会議所は、地域唯一の総合経済団体として、関係諸機関とともに調査研究を重ね、意見具申・要望活動を積極的に展開し、10 年後・20 年後の三浦市の将来像を見据えた活動を推し進めてまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大により、飲食業や観光業を中心に経済活動が低迷し、当所への相談もコロナ関連で年間 1,000 件を超えました。今後も、一日も早く従前の姿を取り戻せるよう、事業者の皆様と共に邁進してまいります。

令和 4 年が三浦市や商工会議所、さらに産業クラスター研究会にとって良い年になりますよう関係者一同力を合わせ頑張っていければと願っております。

### クラスターとは・・・

クラスターとは、ぶどうの房や羊の群れを意味します。米国の経済学者マイケル・ポーターが著書『経済戦略』の中で異業種間のネットワークを構成している状況を意味するものとして『産業クラスター』という言葉を使っています。私たちは地域経済活性化への貢献を目指して、2003 年 8 月に産業クラスター研究会を設立しました。



## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。

2年近く続いたコロナ禍は海外ではまだまだ予断を許さない状況が続いています。

当会もこの間、活動に大きな制約がありましたが、昨年の総会や理事会は一定の条件の下に対面形式で再開し、各部会の会合や支援活動もZoomを利用して行なう等工夫をこらして活動を継続しています。

対外的な活動としては春に続き、11月に観音崎自然博物館のご協力を得て子供たちが自然に親しみながら「ものづくり」の楽しさを体験する「ものづくり教室」を開催し、好評だったため同月に2回目を開催いたしました。

また、海外関連事業部会においては従来の米軍関係の契約翻訳支援に加え、海外からの実習生の為に資格試験の資料の英訳及び講義を通じて受け入れ法人への支援という新しい活動も行いました。

その他、緊急事態宣言の解除を受け一昨年は実施できなかった特徴のある技術や研究の拠点の見学会も11月に新しい公共支援部会長の尽力により多くの法人、個人、そして外部の機関の方の参加も得て「トンネル掘削現場におけるシールド工法の見学会」を開催し大変盛況でした。

経営管理支援チームにおいては横浜市から第三者評価機関として2施設の評価事業を受託し実施中です。

地域的には昨年新たに三浦商工会議所の会員になりました。これからも、地域企業との連携を深めるなど活動の幅

理事長 富野 養二郎



を広げ、更なる展開をして行きたいと考えています。

人類史上初めて経験する新型コロナウイルスによるパンデミックは私達に多くの課題を突き付けています。今、提唱されているSDGsやCOP26は人種や国、政治体制や文化の違いを乗り越えて人類共通の課題として幅広い分野での持続可能性を真剣に模索する試みだと思えます。

宇宙から見た地球の姿を見る時、人々が暮らしている、そして生かされているのは地球の表面にある薄皮一枚程の厚さで青く光る空気の層の下であることを思い知らされます。

SDGsを包括する基底理念は正に地球環境となっており、当会も本年はこの理念を強く意識しながら各種活動を展開して行きたいと考えます。

手始めに例年2月に開催される神奈川県との共同セミナーが開催可能となれば、当会所掌の講演はSDGsに関連したテーマを取り上げたいと思っています。

昨年はお陰様で当会が認定NPO法人となって10年を迎えることができました。認定NPOとして寄付金がいただけるよう公共支援活動に力を入れ清廉恪勤に活動を致す所存ですので、皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

### 【歳時記】 引き金

前例のない無観客で開催された東京オリンピックが終了した。新型コロナウイルスが蔓延する状況の中で、世界中のアスリートと関係者が集うイベントが実施されたことの意味はどの様に評価されるのであろうか。その事が確認される間もなく、新型コロナウイルスデルタ株の急激な感染拡大により医療崩壊の危機が連日報道される状態となった。第五波の新型コロナウイルスの蔓延対策として首都圏を中心に緊急事態宣言が発出されて、飲食店を始め多くの経済活動・行動制限が出された。8月21日の全国の感染者数二五、六六、一人をピークに9月にはいると急速に感染者が減少して、原因分析も不十分ながら、9月末日で緊急事態宣言が解除された。医学者などの専門家の分析も様々出される状況の中であるが、変化のある時は、必ず変化を始めるきっかけすなわち引き金になる要因があると考えているのだが、解明を期待している。

その様な状況の中で、9月30日で油壘マリンパークの閉館が発表された。1968年4月開園以来53年間の運営の中で何故この時期に閉館となったのか。コロナ禍による観客数の減少によると発表されているが、本当にそのことが大きな意思決定の要因であったのか。大変気になって、実に30年以上ぶりに閉館後のお別れ写真展を訪れた。江の島水族館や大洗水族館などに遅れること10年以上であったが、世界の中でも水族館大国である日本において、東洋一の規模を誇り、時代と共に拡張・リニューアルにより三浦半島のテーマパークをめざしていたと思われた。しかし、近年はデイズニワールドやUSJなどの大型テーマパークや八景島シーパラダイス・アクアパーク品川のような都市型水族館などの競合施設の増加で競争が厳しかったと思われる。「2年前には、次の10年後を見据えてリニューアル計画を始めていたところ」と無念を語る館長の姿が報道記事として掲示されていた。50年以上の歴史を大きく変えなくてはならなかった、コロナ禍の影響は持続的経営に致命傷を与える引き金であったのか、写真展に投稿されたセピア色の写真に時の流れの厳しさを感じた。(俊)



油壘マリンパーク

事業活動紹介

# 外国人実習制度の概要

海外関連事業部会 仲田 清



オミクロン株の状況が気になりますが、外国人実習生や特定技能者の入国／再入国再開に向けて、受入れを検討されている企業の皆様に、以下の情報が参考になれば幸いです。

産業クラスター研究会では横須賀商工会議所の紹介で、(株) 酒井工業所様から外国人実習生への教育サポートの依頼を受けました。フィリピン人実習生に対し、事前教育用の社内手順書等の英文への翻訳から始まり、JIS 溶接技量の学科試験英文教材、更に 3 級技能認定学科試験 (学科の受験は必須ではありません) の日本語教材の作成及び講義を行いました。

酒井工業所様は高級鋼を中心としたプラント用配管製作据付工事の会社で、溶接技量が生命線の会社です。酒井社長様の「日本の労働環境を考えると、外国人の長期的な雇用を検討したい」との希望に合わせ、先輩実習生が後輩を教えることができるよう教材も工夫しました。

法務省データによると外国人実習生は年々増加しており、令和 2 年の就労在日外国人約 23% の 40 万人が実習生、約 1 万 4 千人を神奈川県で受入れています。また、業種は図 1 のとおり製造業が半数強です。出身国は図 2 のように、ベトナムが最大で以下中国、フィリピンとインドネシアと続きます。

さて、外国人実習制度は、開発途上国の「人づくり」に協力することを目的としていますが、実態として労働力の確保の意味も否定できません。実習制度は現地送出機関⇒監理団体⇒実習実施場所 (受入れ企業) の 3 者で構成され、実習生の受入れを検討している受入れ企業は、監理団体から実習生の紹介を受けます。監理団体は、契約する現地送出機関と連携して実習生の募集、選抜から送出し前の日本語、マナーや実技の事前教育を行い、更に来日から帰国まで実習の管理と監督並びにサポートをする立場にあります。従って、受入れ企業は自社のニーズに合った監理団体を選ぶ必要があります。該当する業種、希望する国に強いか、希望に合った人材を選べるか、現地での教育体制が充実しているかも重要なポイントのようです。また日本語教育も重要でしょう。

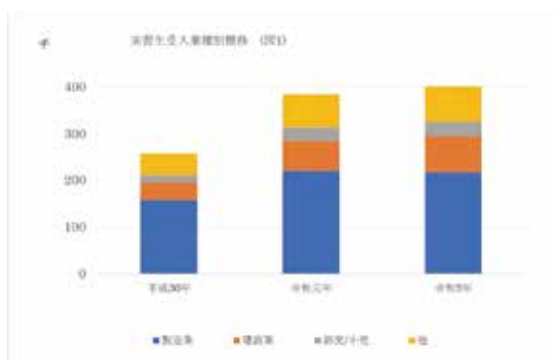
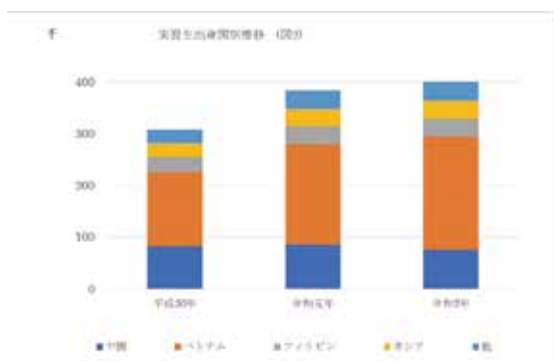
次に実習生受入に関わる費用ですが、まず給与は地域の最低賃金からスタートするところが多いようです。健康保険、労災、雇用保険等の社会保険も日本人同様適用されます。また監理団体に支払う管理費、導入講習費用や各種申請料など各種費用も必要です。

当会法人会員の (株) 佐藤船舶工業様でも、フィリピンからの実習生を受入れています。同社は機械器具設置および鋼構造物の製作据付工事を中心に事業を展開し、新事業・新技術の開発にも積極的に取り組んでいます。田浦にある大型製缶工場は長浦湾に面しており、大型構造物を直接搬出することが可能です。佐藤社長様によると、実習生は早期に戦力として期待でき、仕事に対する姿勢も真面目とのことでした。

佐藤船舶工業様の監理団体は、同社が主要組合員のエコパワー協同組合です。

同組合は一般監理事業の許可を受けており、5 年間の実習が可能で 3 号資格への対応が可能です。また、実習実施会社も優良認定を受ければ、実習生受入れ人数枠も拡大できます。同組合の契約するフィリピン送出機関は、現地教育機関と提携しており、事前教育が充実しているそうです。

外国人労働者の在留資格として 2019 年から「特定技能」が新設されました。業種制限や技能レベル (実習制度での技能認定を含む) などの要件がありますが、特定技能 1 号では 5 年の在留が可能となります。また同 2 号では在留期間の制限がなく家族帯同も認められます。現在、2 号は建設及び造船・船用工業の 2 分野が対象ですが、今春に向けて対象拡大の検討が進められています。





## 歴史散歩

### 歴史探訪 明治維新の横浜・・・作られる歴史

個人会員 片平 悌一

3日住んだらハマッ子だと言われている横浜の野毛に生まれ金沢は西柴で育った老生です。小さい頃から金沢文庫に入りし金沢の古い事などは一応知識の片隅に入れていたつもりでしたが、横浜市の歴史となると意外に知らないことが多く、退職してから開港記念館や博物館などを巡り少しずつ拾い歩きを始めました。

意外だったのは、横浜の古い資料はほとんどなく現在全国から横浜に関する資料を集めている最中だと知り、関東大震災・横浜空襲の破壊力の大きさを感じたところです。

横浜駅から本牧に向かうバスに乗りますと、高島町を過ぎ雪見橋・花咲橋・紅葉坂・桜木町と粋な名前のバス停が続きます。これは開港当時最初にできた花街の名残かも知れませ



御所五郎丸の墓石



御所五郎丸の墓石の説明文

ん。紅葉坂で降り野毛の山に向かっていきますと御所山があります。ここに御所五郎丸の墓跡が町内の有志に守られて残っております。日本三大仇討\*)の一つ曾我兄弟の仇討ちを手引きし本懐後頼朝までも討とうとした弟の時来(ときむね)を取り押さえた御所五郎丸です。以前はここに御所五郎丸の屋敷があったと墓所の説明にはありましたが、御所五郎丸の支配地がここにあったとの文書はないようで、今では御所五郎丸の義があり情のある行いを残すためと表示があります。どうやら花街の箔つけのため地名と同様新たに作ったのではないかと想像いたします。

御所山から野毛山に抜ける切通しを作り港への道を作った跡が横浜道であります。野毛山に上る十字路にまだ一つだけ小さな道標が埋め込まれていたはずですが、今は5cm角、15cm角の新しい道標が歩道に3枚埋め込まれております。

野毛の坂を関内に抜け日本大通りにある「かをり」の横を入りますと、古い大砲が立派な説明書きをバックに一門置かれています。以前は少し離れた所に3門の大砲がゴロリと転がしてありましたが、今は立派なこしらえでデンと置かれています。当時の説明は、嘉永7年黒船海防のため佐久間象山が長野松代藩から運んできた大砲で、大目付阿部によりアメリカを刺激してはいけないので直ちに処分せよとの命令を受

け地中に埋めたものだと説明がありましたが、3門とも形が違いく様なサイズの違う大砲を軍事用に購入していたのかと不思議に思っておりました。現在の説明看板にはここにスイスの商社シーベルブレンワルド商会があり見本の大砲を展示していたのが、関東大震災で建物ごと壊れ地中に埋まっていたものだと書かれております。



90番地の大砲(カノン砲)

この二つのことは古くから物ではなく終戦後復活の活動の中で生まれた物のようで、歴史はこの様にして色々でき上がっていくのかと変に納得したものです。

最後に十分信用できることを一つ。この大砲から山手の山を越え本牧通りに出ますと大和町があります。JRの山手駅から本牧通りまで約600メートルの一直線の商店街があり、ここは松代藩の砲術訓練場の跡で一面の田圃を馬術と砲術の訓練で幕府が借り上げたとのこと、その後ここに民家ができた町がつくられてきました、その名残のようです。

住民から砲術訓練と馬術の稽古は田植え・稲刈りの時期を避けてほしいと代官所に出された嘆願書が残っております。馬が田に入って困っているとか大砲の音で驚き田植えができない等、これは本当のことのようです。「戦前には畑から鉄砲の球が出てきたもんだ」と、古老の話をお聞きしたことを覚えております。



開港資料館前のカノン砲

道路を渡った反対側には「君が代寺」で有名な「妙香寺」があります。国歌「君が代」をジョン・ウィリアム・フェントがここで作曲しイギリス隊により演奏された寺です。

只今横浜では地方にある横浜に関する資料を取集している最中で、これから色々はつきりしたことが解ると思われれます。フェイクでなく本当のことが解ってくることを期待して、たまには開港資料館へお出かけ下さい。

\*) 三大仇討:「赤穂浪士の討入」「鍵谷の辻伊賀越えの仇討ち」「曾我兄弟の仇討ち」とされている。

## イキヌキ イキガイ 趣味の散歩

### 城ヶ島で見る三浦半島の生い立ち (地球の歴史散歩) 中編

個人会員 佐々木 興吉

前回の前編に続き城ヶ島を見て行きましょう。

#### 3. 断層は謎だらけ

城ヶ島の南側の馬の背洞門から西に少し行った崖の中間あたりに島を分断するような高さ 10m 超の大断層を見ることができます。写真の左の灰色の崖が三崎層、右の褐色の崖が初声層でその上に関東ローム層が堆積しています。



城ヶ島南面の大断層  
(中央下部の黒のデイバックが小さく見えます)



城ヶ島 安房崎の北面の断層

三崎層が 1200 万年～ 400 万年前、初声層が 300 万年前に形成されたとありますので、三崎層が初声層の下にあるのが普通ですが、この断層面では両者は縦になっています。

城ヶ島は南北 0.6Km。島を分断する断層とありますのでこの断層は南北に走り、島の北側の漁港まで続いているのかと思っていますが謎です。これは大きな断層ですが島のいたるところに小さい断層が見られます。

断層と言えば地震。地震にはプレートの衝突によって起こる海溝型地震とプレートの破壊によるプレート内地

震 (直下型地震) があり、前者は東海地震、南海トラフ地震、東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災 M9.0 2011 年 3 月)、後者は兵庫県南部地震 (阪神淡路大震災 M7.3 1995 年 1 月)、熊本地震 (M7.3 2016 年) があり、近年では大阪北部地震 (M6.1 2018 年 6 月)、北海道胆



兵庫県南部地震 野島断層保存、北淡震災記念公園内

振 東部地震 (M6.7 2018 年 9 月) が記憶に新しいところです。昨年 10 月 7 日発生の子葉県北西部地震 (M5.9) もプレート内の直下型地震です。



兵庫県南部地震 野島断層保存、北淡震災記念公園内

メモリアルハウス (被災した家屋がそのまま残されている) の塀が段差とともに大きくづれている。建築がしっかりしていたということで内部の壁はひび割れが目立つものの家屋の倒壊は免れている。

大阪北部地震の震源地は高槻市南東、枚方市、寝屋川市との境。小学校のプールのモルタル壁が倒れ登校途中の小学生が下敷きになり死亡するという痛ましい事故がありました。

日本列島には 2,000 以上の活断層があり、阪神淡路大震災より大きく取り上げられるようになりました。

2000 年頃から日本列島は地震の活動期に入ったと専門家は分析しています。

三浦半島には全国的にも有名な活断層があります。北から衣笠断層、北武断層、武山断層です。1997 年の調査では武山断層は 2000 年の活動間隔で、2200 年～ 2000 年前に活断層が動いたことが分かっていますので、周期的にはいつ動いても不思議はない活断層と云われています。その折のトレンチ (地層の断面を見るために掘った溝) の現場は自宅に近いので、当時 散歩の折にたまたま目撃をしています。最初は何か文化遺産が出土したのかと思ったものです。

さて、最後にどうしても触れておかなければならないことがあります。三浦半島の城ヶ島としては、それは次回後編にしたいと思います。



## トピックス トンネル工事現場見学会

地域経済の活性化を支援している当会は、圏央道が横浜横須賀道路の朝比奈ICに早期に連絡することに高い関心をもっております。そこで、当年度は、11月30日に「横浜湘南道路トンネル工事」の現場見学を関係者のご協力を得て実施しました。参加者は総勢25名で盛況でした。

このトンネル工事は、国土交通省関東地方整備局が発注し、西松・戸田・奥村特定建設工事共同企業体が施行するものです。

工事ヤードは野球場が3面できるほどの広大なスペースでスケールの大きさに驚かされました。工事は湘南道路藤沢ICにつながる藤沢市城南と横浜市戸塚区小雀を結ぶ片道2車線道路を地下約10～50mに上り線と下り線それぞれ5.4kmの高速道路を造る工事で「泥土圧シールド工法」でトンネルを造っています。

シールド工法とは茶筒のような鋼鉄の円筒の先端の円盤が回転して掘削して11分割したコンクリート製の円筒(セグメント)を組み立てトンネルを造る工法です。

シールド機は1号機(外径13.59m、長さ14.49m)と2号機

(外径13.24m、長さ14.06m)を使用して行います。

構内は内径が10m以上あるため広く作業通路も2系統造られ整理整頓されていて、見学者も安全に見られる状態で“3K、”と言われ悪名高い土木工事の現場とは思えませんでした。

掘削現場を見た後は約2km横浜寄りにある掘削発進ヤードに移動して掘り出す前のシールド機の大きさを実感しました。

半日を要する見学会でしたが直接現場を見ることができ、とかく評判の土木の現場が規律正しく整然と行われたことに驚かされ、その規模の大きさに土木工事の底力を見せつけられた思いでした。

なお、詳細は当会のWebサイト「トンネル工事見学会」(<http://www.cluster.jp/hp/?p=20037>)を参照して下さい。

(新しい公共支援部会 加藤幹雄)



## 事務局からのお知らせ

- 2021年11月14日、28日の両日 昨年度に続き、観音崎公園においてコロナ感染対策を充分行い、2021年度横須賀市 元気ファンド事業「ものづくり教室」を開催しました。約100名の多数の親子の参加がありました。
- 2021年11月30日 見学バスツアー 横浜湘南道路トンネル建設現場見学会を開催。企業、会員他 25名が参加し滅多に見ることのできないシールド工法によるトンネル掘削現場を見学しました。詳細は本紙トピックスを参照ください。
- 2021年12月17日 第3回理事会を開催し2021年度上期活動実績と下期活動予定を報告しました。
- 2022年1月27日(木)に会員向け経営者交流会を開催の予定です。詳細は別途ご案内します。
- 2022年2月17日(木)「神奈川県中小企業・小規模企業活性化推進月間」事業として三浦市民交流センターにおいて地域の企業の皆さま向けにセミナーを開催する予定です。内容は別途ご案内します。多数の参加をお待ちしています。

(事務局 佐々木興吉)

## 羅針盤

本年もコロナ感染の心配は続く。これを乗り越えて、新しい経済・社会の興りを期待する。本号では、三つの記事を取り上げた。

▼先ずは、理事長挨拶の「SDGsの提唱」である。SDGs(持続性あるよりよい世界をつくる)は2001年に策定されたMDGs(ミレニアム国際目標)の継続として2015年に国連サミットで採択され、2016～2030年達成の国際目標である。その取り組みが活発化している。当会も新しい社会(経済と環境の両立)の興りに積極的な貢献活動を展開したい。

▼次は、歳時記「引き金」にある油壺。筆者の親父(おやじ)との思い出(67年前)。親父は釣りが趣味で、秋深い波静かな油壺に釣りに行った。終わって釣り宿に戻ると、一艘の伝馬船を、ちょっと貸してと言って、「櫓漕ぎ」で30分ほど油壺湾を廻った。親父のリズムカルな漕ぎ姿(お父ちゃんかっこいい!)を今でも忘れられない。油壺マリンパークの閉館は、とても淋しい。

▼三つ目は、トピックス「横浜湘南道路トンネル工事見学」である。一般には難しい現場見学が実現した。トンネル工事では、過去の事故「青函トンネル(犠牲者34人)、丹那トンネル(67人)」などを連想する。見学で、「工事の安全性」と「完成したトンネルの強靱性」に想像を超えて驚嘆した。これも、あらゆる建築技術、材料技術、管理技術(特にPERT手法)などの技術融合により、現在では、日本の土木技術は世界一を誇る。加藤顧問の企画・尽力に感謝である。

▼本年は、「SDGs」(150年前の渋沢栄一に学び)を羅針盤にして活動したい。(昭)

発行：特定非営利活動法人 産業クラスター研究会

〒239-0847 横須賀市光の丘8番3号 YRPベンチャー棟209号

Tel & Fax：046-847-6355 E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

横浜事務所 〒236-0055 横浜市金沢区片吹69番26号

連絡先：046-847-6355 E-mail：yrp-cluster@marble.ocn.ne.jp

発行人：富野 養二郎